

官報

號外

明治三十二年三月二日

木曜日

印刷局

第十三回 帝國議會 貴族院議事速記録第三十七號

明治三十二年三月一日(水曜日)午前十時二十一分開議

議事日程 第三十七號 明治三十二年三月一日

午前十時開議

- 第一 印紙稅法案兩院協議會成案(衆議院提出) 會 議
第二 領事官ノ職務ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會
- 第三 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉 會 議
明治二十九年度豫備金支出ノ件外七件承諾ヲ 會 議
求ムルノ件(議院送付) 會 議(特別委員)
臺灣總督府法院ノ判決ニ對スル大審 會 議(特別委員)
院ノ裁判權ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會ノ續(特別委員)
第五 華族令中改正ニ關シ貴族院令第八條ニ依リ 會 議(前會)
御諮詢ノ件(政府提出) 會 議(前會)
- 第六 明治三十年法律第十四號關稅定率法 第一讀會ノ續(特別委員)
中改正法律案(衆議院提出) 會 議(前會)
- 第七 關稅定率法附屬輸入稅表中改正法律 第一讀會ノ續(特別委員)
案(衆議院提出) 會 議(前會)
- 第八 討論終局ノ動議ニ關スル規程外一件特別委 會 議(特別委員)
員會報告 會 議(特別委員)
第九 明治二十九年度決算ニ關スル決議案 會 議(特別委員)
國費ヲ以テ國學院ヲ保護スルノ建議案(岡護美 會 議(特別委員)
君外二名發議) 會 議(前會)
- 第十 廣島縣下系崎港ヲ輸出入港ト指定スルノ 會 議
建議案(男爵尾崎三良 會 議)
第十一 區裁判所設置ノ請願 會 議
第十二 不正肥料販賣取締法制定ノ請願 會 議
第十三 金粉金箔製造賣買取締法制定ノ請願 會 議
第十四 衆議院議員選舉法改正ノ請願 會 議
第十五 營業稅法改正ノ請願 會 議
第十六 鹽田特別地價修正ノ請願 會 議
第十七 船舶司檢支所設置ノ請願 會 議
第十八 會 議
第十九 會 議

貴族院議事速記録第三十七號

明治三十二年三月一日

議長ノ報告

- 第二十 蠶種檢査法追加ノ請願 會 議
- 第二十一 日清貿易機關銀行設立ニ關スル請願 會 議
- 第二十二 清國債金ノ一部ヲ教育費ニ充ルノ請願 會 議
- 第二十三 電信局開設ノ請願 會 議
- 第二十四 村境界變更ニ關スル請願 會 議
- 第二十五 郡役所ヲ廢スルノ請願 會 議
- 第二十六 小學校教育費國庫補助ノ請願 會 議

○議長(公曾近衛篤磨君) 昨日詔勅ヲ受領致シマシタ

朕三月九日迄七日間帝國議會會期ノ延長ヲ命ス

(一同敬禮)

○議長(公曾近衛篤磨君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

(小原書記官朗讀)

昨二月二十八日本院ニ於テ可決シタル左ノ議案ハ即日內閣總理大臣ヲ經由
シテ裁可ヲ奉請シ及可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知シタリ

政府提出

船舶法案

船員法案

衆議院提出

農會法案

地價地租ニ錢位未滿ノ端數ヲ生スルトキ計算ニ關スル法律案

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日衆議院ニ送付シタリ

權利收用ニ關スル法律案

軍艦水雷艇補充基金特別會計法案

災害準備基金特別會計法案

同日本院ニ於テ修正議決シタル左ノ議案ハ即日衆議院ニ回付シタリ

政府提出

登錄稅法中改正法律案

衆議院提出

小學校教育費國庫補助法案

同日左ノ衆議院提出案ハ本院ニ於テ否決シタル旨衆議院ニ通知シタリ

實業教育費國庫補助法中改正法律案

北海道水產稅則廢止法律案

同日本院ニ於テ可決シタル美術工藝學校ヲ京都ニ設立スルノ建議書ハ即日
政府ニ呈出シタリ

同日周布公平君、石井省一郎君ヨリ百八名ノ贊成ヲ以テ官立農事試驗場ノ支場ヲ廢シ府縣立農事試驗場ノ國庫補助費ヲ增加スルノ建議案ヲ發議セラレタリ

同日政府提出領事官ノ職務ニ關スル法律案ヲ受領シタリ

同日衆議院ヨリ左ノ政府提出案ヲ受領シタリ

國有林野法案

國有土地森林原野下戻法案

水難救護法案

家祿賞典祿處分法施行法案

動產銀行法案

同日衆議院ヨリ本院ノ送付ニ係ル左ノ政府提出案ヲ可決シ奏上セル旨ノ通牒ヲ受領シタリ

銀行條例中改正法律案

銀行ニ關スル法律ニ定メタル過料ニ關スル法律案

明治二十三年法律第九十號中改正法律案外二件特別委員會ニ於テ委員長ニ久保田讓君、特別委員長ニ伊澤修二君當選セラレタリ

國事犯罪者家祿賞典處分法案特別委員會ニ於テ委員長ニ子爵唐橋在世君、副委員長ニ濱尾新君當選セラレタリ

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ本日ノ日程ニ移リマス、印紙稅法案、兩院協議會成案、衆議院回付、會議

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

印紙稅法案兩院協議會成案

貴族院修正案中ニ左ノ第三條ヲ加ヘ以下條數ハ衆議院議決案ノ通リトス

第三條 爲替手形、約束手形ハ一通毎ニ其ノ記載金高五圓以上ノモノニ限り左ノ割合ヲ以テ印紙稅ヲ納ムヘシ

金高二千圓未滿

印紙稅二錢

金高二千圓以上

印紙稅十錢

貴族院修正案第三條中第二號及第三號ヲ削除ス
其他ハ貴族院修正ノ通リトス

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ本日ノ日程ニ移リマス、印紙稅法案兩院協議會成案、衆議院送付、會議

(子爵由利公正君演壇ニ登ル)

○子爵由利公正君 兩院協議會ノ經過ヲ御報告シマス、去ル二十六日ニ協議會ヲ開キマシテゴザイマスルガ、即チ此衆議院カラ言ハレマス所ハ前ニ貴族院ニ於キマシテ此累進稅ヲ避ケテ政府案ニ復活シタト云フコトハ誠ニ適當ナ御修正デアラフテ服從致スベキデアルガ此衆議院ノ之ヲ累進稅ニ致シタ譯合ト云フモノハ即チ第二條ニ於キマシテ五分ノ五ト云フコトガアリマスル、其万

分ノ五ト云フモノハ十萬圓ニ對シテ五十圓ト云フ課稅ニナルノデアル、今後此十萬圓ト云フ取引ハ隨分アルモノト見ナケレバナラス、ソレニ課スルニ五十圓ノ印稅ヲ以テスルト云フコトハ如何ニモ苛酷ニ過ギル、依ッテ此万分ノ五ト云フ字ヲ初メ二ト云フモノニシタイト云フ考ヲ持ッテ居ッタノデアッタガ協議會ノ末ニ委員會ニ於テハ万分ノ三ト云フコトニ決著致シタノデアル、然ル處政府ノ手許ニ於テ收稅ノ額ガ減リマスルニ依ッテ其コトヲ心配ヲ致シテ餘儀ナクモ此累進ノ法ヲ取ッタ次第デアッタ、然ルニ豈ニ圖ラン、此本會議ニ於テ第二條ノ万分ノ三ト云フ字ニシタノヲ原案ニ復活サレタ次第デアアル、サウシテ此第三條ノ累進法ヲ取ッタノハ其儘殘ッタト云フ成行ニナッタ譯デアリマスル、爲ニ貴族院デ累進稅ノ煩ハレテ原案ニ復活サレタト云フコトハ誠ニ其道理ニ於テ御尤至極ニ考ヘマスル、然ルニドウカ此万分ノ五ト云フ稅ハ今幾分力減シタイト云フ考ヲ持ッテ居リマスカラドウカ此第三條ニ於テ二箇條ノ修正ヲ加ヘラレタイト、ソレト言ヒマスルノハ第三條ニ至リマシテ金高二千圓未滿印紙稅二錢、金高二千圓以上印紙稅十錢ト斯ウ云フコトニ此二箇條ヲ入レタイ、ドウゾソレヲ以テ此協議會ハ同意ヲシテ貫ヒタイト云フ論ガ出マシテサウシテ貴族院ノ方ノ議員諸君ニ於キマシテモ衆議院ノ方カラ出マシタ協議員ニ於キマシテモ何レモ尤ナ説デアアルト云フノデソレヲ贊成ニナリマシタ此二條ノ修正ニ止メテ當會期ハ纏メタイ、而シテドウゾ如何ニモ此二條ノコトハ苛酷ニ過ギルト思ヒマスカラ今後ノ議會ニ於テドウゾ是ハ修正ニナルヤウニ致シタイト云フ希望ヲ述ベラレマシテサウシテ二條ノ修正ガ決シマシタ次第デアリマス、ソレニ附キマシテ此二條ヲ改メタニ附キマシテアトハ關係スル分ハ書記官ノ方デ訂正ヲ致サウニト斯ウ云フコトニ協議會ハ終リマシタ次第デアリマス、何卒コ、ラデアリマスルナラバ格別ナ煩ト申ス程ニモアルマイト存ジマスカラドウゾ皆サン御贊成ヲ願ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 兩院協議會ノ成案ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
起立者 多數

○議長(公爵近衛篤磨君) 過半数ト認メマス領事官ノ職務ニ關スル法律案政府提出、第一讀會

(小原書記官朗讀)

領事官ノ職務ニ關スル法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十二年二月二十八日

内閣總理大臣 侯爵山縣有朋
外務大臣 子爵青木周藏
司法大臣 清浦奎吾

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

領事官ノ職務ニ關スル法律案

第一條 條約中特ニ領事官ノ權限ニ屬セシメタル事項ニ關シテハ法律ニ牴觸セサル範圍ニ於テ命令ヲ以テ其ノ制限ヲ設クルコトヲ得

第二條 條約中領事官ノ職務ニ關シ法律ノ規定ヲ要スル事項ニ付法律ノ規定ナキトキハ命令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第三條 領事官其ノ他本法ニ依リテ職務ヲ行フ者ハ法令及條約ノ規定ニ從テ其ノ職務ヲ行フヘシ但シ國際法ニ基因スル慣例又ハ駐在地特別ノ慣例ニ從フコトヲ得

前項ニ依リ難キトキハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四條 外國ニ於ケル施行期日ヲ定メサル法律ニ付テハ命令ヲ以テ其ノ施行期日ヲ定ムルコトヲ得

第五條 領事官ノ職務ニ關スル管轄區域ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 條約又ハ慣例ニ因リ領事裁判權ヲ行フコトヲ得ル領事官ハ第七條乃至第十七條ノ規定ニ從ヒ訴訟事件並非訟事件ニ關スル事務及登記事務ヲ行フ

第七條 前條ノ事務ニ關シテハ領事官ハ法令、條約及慣例ニ牴觸セサル範圍ニ於テ地方裁判所及區裁判所ノ職務ヲ行フ

第八條 領事官ハ重罪ノ公判ヲ爲スコトヲ得ス
輕罪ノ裁判ニ付テハ豫審ヲ須井ス

第九條 領事官ノ豫審ヲ爲シタル重罪ノ公判ハ長崎地方裁判所之ヲ管轄ス
第十條 領事官ノ管轄ニ屬スル刑事ニ關シ國交上必要アルトキハ外務大臣ハ其ノ事件ヲ管轄スヘカラサルコトヲ領事官ニ命シ且被告人ヲ內國ノ監獄ニ移送セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ司法大臣ハ其ノ事件地方裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ長崎控訴院檢察事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ控訴院ニ爲サシメ其ノ事件區裁判所ノ權限ニ屬スヘキモノナルトキハ長崎地方裁判所檢察事ヲシテ裁判管轄指定ノ申請ヲ其ノ地方裁判所ニ爲サシムヘシ

第十一條 前條ノ申請及裁判ニ關シテハ刑事訴訟法第三十三條ノ規定ヲ準用ス

第十二條 地方裁判所ノ權限ニ屬スル事項ニ關シ領事官ノ爲シタル裁判ニ對スル控訴又ハ抗告ハ長崎控訴院之ヲ管轄ス

第十三條 領事官ハ領事館員又ハ警察官ヲシテ檢察又ハ裁判所書記ノ職務ヲ行ハシムヘシ

裁判所書記ノ職務ヲ行ハシムヘキ前項ノ官吏ナキトキハ領事官ハ其ノ管轄區域內ニ在留スル帝國臣民中ヨリ選任シテ臨時其ノ職務ヲ行ハシムル

コトヲ得

第十四條 領事官ハ領事館員又ハ警察官吏ヲシテ執達吏ノ職務ヲ行ハシムヘシ

前項ノ職務ヲ行フ者ハ自己ノ責任ヲ以テ自ラ適當ト認ムル者ニ臨時其ノ職務ノ執行ヲ委任スルコトヲ得

第十五條 法令ノ規定ニ依ルモノヲ除ク外訴訟代理人又ハ辯護人ヲラントスル者ハ領事官ノ允許ヲ受クルコトヲ要ス

第十六條 通常裁判所ニ於ケル忌避又ハ回避ニ關スル規定ハ領事官其ノ他本法ニ依リテ職務ヲ行フ者ニハ之ヲ適用セス

第十七條 第十三條及第十四條ニ掲ケタル職務ヲ行フ者ナキトキハ外務大臣ハ同一國內ノ他ノ領事館官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ行ハシムルコトヲ得

第十八條 領事館ノ設置ナキ地ニ限リ勅令ノ規定ヲ以テ本法其ノ他ノ法律中領事官ハ領事官ノ取扱フヘキ事項ハ領事官ニアラサル者ヲシテ之ヲ取扱ハシムルコトヲ得

第十九條 本法其ノ他ノ法律中單ニ領事官又ハ領事官ト稱スルハ名譽領事ニアラサル領事及其ノ代理ヲ謂フ

第二十條 本法施行ノ爲必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 清國並朝鮮國駐在領事裁判規則ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(政府委員都筑馨五郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(都筑馨五郎君) 是ハ此法律案ハ新條約、改正條約ノ領事職務條約ノ中ノ種々ノ箇條ニ據ッテ新ニ領事ノ職權ヲ付シ又ハ從前領事ノ職權ヲ變ヘネバナラヌ事柄モ大分アリマス、ソレカラ又獨リ改正條約ノミナラズ從來ノ領事裁判權ヲ持ッテ居リマス所ノ以外ニ於テ領事裁判權ヲ得タヤウナ條約モアリマスノデ此商法民法等總テ內地ノ法典ノ整ヒマシタニ附キマシテ獨リ法典或ハ法理ノ原則カラ論ジマシタラ其儘治外法權ヲ享有シテ居ル國ニ於テ實行サセルト云フ解釋ガ穩當デアラウカト思ヒマス、然ルニ支那朝鮮等ニ於キマシテ日本ノ法律ヲ其儘ニ施行スルト云フコトハ到底出來ナイト云フ場合ガ澤山アリマスノデソレ等ノコトヲ總テ其現行法ノ通ニ行ハナイデモ宜イヤウナ規定ヲドウシテモ要スル次第デゴザイマス、旁、此法律ヲ出シマシタ次第デアリマス宜シク……

○議長(公費近衛篤磨君) 御發議ガナクハ委員選定ニ移リマス

○男爵生駒親忠君 此特別委員ハ議長ニ御依託致シマス

○伯爵大原重朝君 贊成

○議長(公費近衛篤磨君) 議長御依託ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 明治三十九年度豫備金支出ノ件外七件承諾ヲ求ムルノ件政府提出衆議院送付、會議、特別委員長報告

(侯爵松平康莊君演壇ニ登ル)

○侯爵松平康莊君 此委員會ハ委員ニ付託サレマシタ以來ツレ／＼取調ベマシテ昨日委員會ヲ開キマシテ決了致シマシタノデアリマス、二十九年度ノ方ニ於キマシテモ委員會ニ於テ異議ハゴザイマセヌカッタノデアリマスルガ唯、内務省ノ部分ノ所、六十五頁ノ所デ横濱築港工事ノコトハ此コトハ諸君御承知ノ通ニ一旦築港ヲ致シマシテ又二箇月程立チマシテ再ビ砂ヲ入レルト云フヤウナコトガアリマシテ此タメニモ隨分費用モ掛ツテ居ルヤウナ次第デアリマシテ委員會ニ於テモ十分質問モ致シマシテ其末尙ホ注意ヲスルヤウニト云フ話ニ致シテ置キマシタノデアリマス、ツレカラ其次ハ内務省ノ部分ニ於キマシテ官林ノ盜伐ノ事件ニ附キテモ隨分酷イ事情ガアリマシテツレノミナラズ買収杯ノコトニ附イテモアリマス、ツレ／＼質問ヲ委員會デハ致シマシテ是レ亦以後ノ注意ヲ請ヒマシテ決了致シタ次第デアリマス、其外全部トモ皆異議ナク承諾ヲ求ムルコトニ同意ヲ致シタノデアリマス、三十年度豫備金支出ノ方モ是レ亦同ジク全部何モ異議ナク委員會デハ承諾ヲシテ宜カラウト云フ議決ヲ致シテ決了致シタ次第デアリマス、此段御報告ヲ致シテ置キマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ハ承諾ヲ與ヘルト云フコトニ決シテ御異議ゴザイマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 然ラバ其通ニ決シマス、臺灣總督府法院ノ判決ニ對スル大審院ノ裁判權ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長ノ報告

(伯爵坊城俊章君演壇ニ登ル)

○伯爵坊城俊章君 唯今ヨリ委員會ノ經過ヲ報告致シマス委員會ハ昨日午前ニ於キマシテ開キマシタコトデゴザイマス、然リマスル所、書類ハ御手許ニ上ツテ居リマスル通委員會ニ於テハ之ヲ否決致シマシタ、其委員會ノ經過ノ模様即チ其否決致シマシタ所ノ所謂原案ニ反對者ノ説及賛成者ノ御説ヲ唯今ヨリ極簡短ニ御話ヲ申上ゲマス、ソコデツレヲ申上ゲマスル前ニチヨット諸君ニ申上ゲマスルガ、抑、私ニ於キマシテハ斯ウ云フ法案ハアリヤウヲ申シマスルト誠ニ素人デゴザイマシテ十分諸君ノ御分リナリマスルヤウニ辯明ヲ致スコトハ能ヒマセヌト存ジマス、爲ニ又其反對者賛成者ノ兩者共ノ意味ヲ十分ニ諸君ニ御披露ヲ申ス譯ニハ至リマスミイト存ジマスカラ是ハドウカ細密ナ所要用ナ點ハドウゾ兩者ヨリ特別ニ意見ヲ申述ベラレルヤウニ希望ヲ致スコトデアリマス、然ラズンバ滿場諸君ガ十分御承知ニナリ兼マセウト思ヒマスカラ私ニ於キマシテハ唯短簡ニ報告ヲ致シテ置キマスコトデゴザイマ

ス、其是ニ反對スル所ノ諸君ノ説ハ素ヨリ臺灣ト云フモノハ人情風俗内地ニ異ナルコトハ申スニ及バズ異ナル、ツレ故ニ彼ノ總督府ニ於テハ立法權司法權總テノ大權モ委ネラレテアル位ノコトデアッタツレ故ニ上審スベキ方法ハ總督府デ附ケラレヌコトハナイ、ツレハ或ハ判官ガ足ラヌトキニ於テハ下級裁判所ノ判官ヲ陞叙シテモ上審、三審マデノ法ヲ取ルコトハ十分出來ルデアル、然ルニハル、此東京マデ持チ來シテヤルト云フモノハ其事柄ヲ遲延スルノミナラズ費用ノ點ニ於テモ甚ダ不便デアアル、又其人民ニ迷惑ヲ掛ケルコトニ於テモ頗ル迷惑デアアル、デヤニ依ッテツレダケノ方法ニナツテ居ルモデヤニ依ッテアノ地方デ十分ヤツテ宜シイト申ス、先ヅ論點デゴザイマシタ、デ是ニ賛成者ノ説ハ是ニデヤゴザイマセヌ即チ原案ニ賛成者ノ説デゴザイマス、固ヨリ此臺灣總督府ニ於キマシテ三審ノ法ヲ執ルハ即チ固ト上告高等法院ハ廢シタモノデアアル、デヤニ依ッテ今ニ審法デアアルカラ三審法ヲ執ルハ内地ノ方デ之ヲ繼續スルガ十分宜シイ、ツレト云フモノハ内地人及外國人モ共ニ居ル所デ是等ハ總テ内地人同様ニ民法商法刑法等トモ同ジコトニナツテ居ル、然ルニ此上審モ出來ナイト云フ所ノ者ニ至ッテハ甚ダドウモ不完全デアル、デ之ヲスルニハ内地ノ大審院ニ繫グガ唯一ノ法デアラウ、固ヨリ海ヲ隔ツト雖モ僅カ一葦帶水ヲ隔ツグライノコトデアアル、故ニ十分ノコトデナケレバ是マデノ所ニ到ラヌ譯ダカラ決シテツレ程不便ヲ感ズルモノデナク又臺灣總督府ハ財政上ノコトニ就イテモ十分ノ節減ヲ致シテ居ル矢先ニ尙ホ其所等ノコトヲバ臺灣ニ於テヤラスルトキニナレバ費用ノ點ニ於テモ隨分多クノ費用ヲ費サンナラヌコトデアアル、ツレヨリハドウカ矢張内地ニ之ヲ繼續スル方ガ便利デアアル、内地ニ繼續スルレバ費用ガイルヤウニ見エルケレドモ是ハサウナルベキモノデハナイ是ハ第一以前ノコトニ徴シテ明デアアルカラト斯ウ云フ詰リ兩説デゴザイマシテ遂ニ之ヲ採決ヲ致シマセヌトキニハ即チ前報告ヲ致シマシタ通ノ大多數デゴザイマシテ遂ニ否決スルコトニ決シマシテゴザイマス、ソコデ此尙ホ少數意見モ出テゴザイマスルガ御手許ニゴザイマスル通ノ都合デゴザイマシテ是レ亦少數者ノ内ヨリモ辯明ニナリマスルコトデゴザイマス、私モ少數者ノ一名デハゴザイマスケレドモ私ハ前申上ゲマシタ通ノ次第デゴザイマスカラ單ニ報告ニ止メテ置キマスル、且ツドウカ是ニ就キマシテハ諸君御質問モゴザイマセウト存ジマスガ、ドウゾ其御質問ハ私ヨリ御答ヲ申上ゲマシテモ十分御満足ニナルダケノ御答ハ申上ゲラレヌ譯デゴザイマス、ツレ故ニコ、止メテ置ク次第デゴザイマスカラドウゾ是ハ政府委員其他委員ノ御方々皆ツレ、御方ガ御出デゴザイマスカラ其御方々カラ御答ニナツテ滿場諸君ノ御満足ニナルヤウニ偏ニ希望致シマスルコトデアリマス

○關義臣君 議長、演壇ニ登リマセウカ

○議長(公爵近衛篤磨君) 少數意見デゴザイマスカ

○關義臣君 宜シウゴザイマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 宜シウゴザイマス

（關義臣君演壇ニ登ル）

○關義臣君 此臺灣總督府云々ノ裁判權ニ關シマシタ法律案ニ就キマシテハ、私ハ委員ノ一人デゴザイマシテ唯今委員長ヨリ少數意見モ提出ニナツタコトニ附イテ一口ハ申シマシタケレドモ、尙ホ私ガ一應意見ヲ陳述致シタウゴザルカラ之ニ登リマシタ暫ク御靜聽ヲ希ヒマス、畢竟此法律案ハ諸君ノ御手許ニアル通誠ニ簡單ナモノデアル、簡單中ノ最モ要領ヲ摘メバ大審院ニ上告ヲ許シマスカ許サヌカト云フコトノ委員ノ兩說ニ岐レタノデゴザイマス、ソコデ兩說ニ岐レマシタガ私ハ少數者デ、多數者ノ意見ト云フモノハ畢竟上告ハ必要ガナイト云フヤウナコトガ重モニナツテ居ル、ト云フモノハ臺灣ニ高等法院ヲ置カレタノハ二十九年ノ七月デアル七月ニ始ツテ、廢セラレタノハ三十一年ノ七月デゴザル、其間ニ民事ガ四件バカリシカナイ、又刑事ニ屬スル上告ガ三十二件ト云フヤウナ少數ナモノデアル、ソコデコチラノ大審院マデ來テ上告ヲ受理シテ審理スル程ノ必要モナイト云フヤウナ點ト又臺灣ニ高等法院ヲ置カズ今日既ニ七月カラ既ニ廢シタト云フモノハ費用ノ點ニ係ル、サウ云フコトデ廢シタノト見ヘルケレドモ總督ニハ無上ノ權限モアル、而シテ見レバ總督ニ於テ此上告ヲ受理スル覆審院ニ於テ上告ヲ受理サセタガ宜イト云フヤウナ反對者ノ意見デアル、覆審院ハ唯今ハ判事ガ五人所長ヲ交ゼテ六人デアル、デ二人ノ判事ヲ増シテサウシテ上告ヲ覆審院デヤッタガ宜カラウ杯ト云フ說モアリマスケレドモ其反對者ノ意見ニ附キマシテハ上告ハ最モ私共ハ必要デアル、到底此臺灣ニ居ル日本人、外國人ニハ民事訴訟法刑事訴訟法ハ内地同様ニ行レテ居ルノデアル、ソレヲ上告ノタメニ矢張覆審院デ上告ヲ受理シテ審判スルコト云フヤウナコトハ到底アルベキヤウガアルマイト思ハレル、ナゼト云ハバ覆審院ニ二人ノ判事ヲ増シテ七人ニシタ所ガ到底法律上原裁判ニ係ッタモノハ覆審院デスル、覆審院ニ係ッタモノハ大審院ニ係ルコトガ出來マセヌノハ日本ノ法律上明文モアルコトデアル、例ヘバ豫審ニ關涉シタ判事ガ公判ニ係レヌト同様ナコトデアル、大審院ノ權限ヲ高等法院ニ於テ持タセル高等法院ノ何處カラ來ルト云フト覆審院カラデアル、判事ハドウカト云ヘバ元トノ判事ニアト一人ヲ増セバ宜イト斯ウ云フヤウナコトデアッテ到底出來ナイコトデアル、又總督ニハ無上ノ權限ガアル、アルケレドモ是レ亦イケナイデス、例ヘテ見ヤウナラバ英國ノ殖民地杯ニ於テハ最モ印度ノ大使杯ニ無上ノ權ヲ持タシテ居ルケレドモ聞ク所ニ據レバ此上告ニ至ツテハ決シテ印度デハシナイノデアル、此法律ノ點ト云フモノハ法律ノ權力上ドウシテモ一ニ纏メナケレバナラヌノデアッテ大審院デ之ヲ掌ルガ當リ前デアル、御承知ノ通佛蘭西デモ固ヨリサウデアル、英國ニ於テハ樞密院ニ於テ之ヲ掌ルノデアアル、一箇所ニ限ルノデアアル、然ルニ又反對者ノ言ハレルニハ日本ノ現在ノ控訴院ニ於テハ區裁判ノ民刑事ノ上告ヲ受理シテ行クト云フ例ガ出タ、或ハ獨逸ニ於テハ各所ニ大審院ノ權限ヲ以テ上告ヲ受ケルト云フコトモアルケレドモ此日本ノ控訴院デ上告ヲ受ケルノハ御承知ノ通極ク輕易ナモノデア

ル、民事刑事共或ハ百兩以下民事ナラ……刑事ナラ何ト云フ區別ガアル、ソレ故ニ控訴院デ受ケルノハ極ク輕易ナモノデアアル、臺灣ニ至ツテハソレ違テ普通民事ニスレバ千兩兩兩幾ラノコトガアル、刑事ニスレバ首斬リマデモ判決ヲスル、其上告ヲ受ケルノハ覆審院デスルト云フコトハソレハ出來ナイ、ソレカラ法律ト云フモノハ到底大審院ガ總ベナケレバイケナイ、臺灣ノ覆審院デサレタトキ或ハ法律ノ解釋ガ違フトカ何レ其手續ガ違フトカ、サウ云フコトハ到底免レヌコトデアッテドウシテモ大審院デ一ツニスベキガ當リ前デアルト云フ私共ノ意見デアル、又反對者デハヒドイ不便ナ内地マデ臺灣カラ上告スルト云フ不便ハ決シテ人民ニ與ヘタクナイト云フ論モアルケレドモ是ハ間違ナ話デアアル何ニモ不便ニシタ所ガ例ヘバ英國ノ如キハ世界ニ殖民地球ヲ持ツテ居リマス、英國ハ固ヨリ法律ヲ多ク殖民地杯ヲ主眼トシテ定メタコトデアアルカラ違フコトハアルケレドモ即チ樞密院ノ一院ニ取ツテ掌ツテヤツテ居ル、今東洋ノ開港場ニ於テ外國人ノ相手方ガ服セザルトキハ倫敦ノ樞密院マデ行カナケレバナケヌコトデアアル、佛蘭西モ同ジコトデアアル今臺灣カラ此内地ニ上告スルノハ決シテ不便ハ感シナイ、誠ニ英國ハ斯ク御承知ノ通殖民地杯ヲ持ツテ居ルノデ是ト較ベタラ十分ノ一二モ足ラヌコトデアアル、又英國ニ日本邊カラ上告スルニハ臺灣杯ノ比較スベキモノデハナイ、サウシテ又上告ニ限ツテ總テ是ハ書面ニ止ツテ刑事デナケレバ被告人ヲ引張ツテ來ルノデハナイ、證人ヲ引張ツテ來ルノデハナイ、書面ニ過ギナイ、ソレデ大審院デ辯護人ヲ命ズルノデアル、若シ民事ニシテモ書面デ濟ムノデコチノ辯護士ニ託シテ來レバ何モ不便ヲ感ズルコトモナシ又初メニ申上ゲタ政府委員ノ話ヲ委員會デ聽キマシタ所ガ其上告ノ數ト云フモノハ誠ニ僅ナモノデア

ル、反對者デアレバ僅カ故ニ必要ガナイト云フカモ知レヌケレドモ是ハ件數ノ多少ニハ係ハラナイ、法律上無論二審ニ止メヌシテ三審ニシナケレバナラヌ、二審ガアルトスレバ其所在地ニ大審院ガアル、是デ統一スルガ當リ前デゴザル、ソコデ委員會ニ於キマシテハ委員長ノ報告ノ通私共ハ反對者ノ意見ニハ服スルコトガ出來マセヌ已ムヲ得ズ少數者ノ意見トシテ差出シテアリマスガ大要ハ今申上ゲマシタ通デゴザイマス、ソレカラ衆議院ノ修正ガアリマス、其事件ヲ他ノ控訴院ニ移送シ又ハ原法院ニ差戻スベシト云フ修正ニナリマシタガ、是ハ到底出來ナイコトデアアルト思フ、實際上上告ヲシテ來ルト……控訴院カラ來ルト其違ツタ點ヲ指圖ヲシテ返シテ覆審ヲサセルノデアアル、其覆審ト云フノハ矢張事實ノ裁判デアアル、ソレデ若シ此修正ノ通ニ他ノ控訴院ニ移シタトキニハ是ハ事實ノ裁判デアアル、故ニ其時ハ臺灣カラ被告人ヲ喚バヌナラヌ、證人モ喚バヌナラヌ、色々ソレニ附イテハトヒヤウモナイ面倒ガ起ルノデアアル、又民事ニシテモ其通デアアルカラ他ノ控訴院ニ移送シト云フコトハ無論同意ノ出來ナイコトデアアル、原法院ヘ差戻スベシト云フコトガ不都合ダト云フ說モアルヤウデアリマスガ今日ノ大審院ニシテ矢張其通ニ行レテ居リマス、譬ヘバ名古屋カラ來レバ……民事ナラ民事、刑事ナラ刑事ノ法律ニ

違フテ居ル點ヲ破毀シテ裁判所ヘ移シ、即チ名古屋ナラ名古屋デワレヲ審理シテ判決ヲスルノデアル、是ハ何モ其原法院ニ差戻スベシト云フ政府案ハ少シモ不當ナコトデハナイノデアル、ソコデ他ノ控訴院ニ移送シト云フノハ事實上不都合デアルノミナラズ非常ナ手數ガ掛ツテ出來ナイ話デアルカラ、無論是ハ私ドモハ同意スルコトハ出來マセヌカラ政府案ノ通ニ復活ヲ希望スルノデゴザイマス、甚ダ私ハ御承知ノ通不辯テ極テ主意ガ明瞭ニ御分リガナイカモ知レマセヌガ、ドウゾ宜シク御勸考下サイマシテ少數者ノ意見即チ政府案ノ通ニ御贊同アリマシテ可決ニナルコトヲ希望致シマス

〔政府委員森田茂吉君演壇ニ登ル〕

○政府委員(森田茂吉君) 唯今本案ニ對スル委員會ノ決議及少數御意見トシテ御陳述ニナリマシタ、此際ニ於テ本案ニ對シマスル所ノ政府ノ考ヲ御參考ノタメニ申述ベヤウト考ヘマス、ソレデ此本案ヲ不備トセラレマシタル御議論ノ中ニハ臺灣ハマダ風俗人情ヲ異ニシテ居リ又其進歩ノ度合カラ云フテモ半開デアル、其半開ノ新領土ヲ統治スルノニ内地ニ於ケルガ如キ三審ノ制度ヲ取り、或ハ上告再審ヲ許スガ如キ面倒ナ制度ヲ設ケヌデモ宜カラウト云フ御議論ノヤウデゴザイマス、デ此點ニ附キマシテハ臺灣ニ成法即チ法律ヲ行ッテ居リマスル狀態ヲ少シ誤解セラレテ居ル點ガアリハセヌカト思ヒマスルカラ簡單ニ其點ヲ申述ベマスガ、臺灣ニ於キマシテハ數多ノ土人ト内地カラ移住シタル所ノ人ト西洋人トガ居リマス、サウシテ其土人ニ對シマシテハ法律ハ總テ内地ト異ツテ居リマシテ種々ナル所ノ土人ノ慣習若クハ風俗トカ人情トカ云フモノヲ酌ミマシテ法律ノ制定ガ大ニ異ツテ居リマス、即チ彼ノ六十三號ノ權能ニ依ツテ種々ノ法律ガ出テ居リマス、併ナガラ此内地カラ移住致シマシタル内地人及アソコニ居リマスル外國人ニ向ッテハ内地ニ行レル所ノ民法商法刑法及是等法律ノ附屬法トシテノ民事訴訟法ガ行レテ居ルノデゴザイマス、此民事訴訟法ノ如キハ臺灣ニ於ケル内地人及外國人ダケニ行レテ居ルノデゴザイマシテ、土人ニ向ッテハ法律ハ全ク是ハ異テ居リマスルガ故ニ臺灣即チ新領土ヲ統治スルノニ斯ウ云フ面倒ナモノハイラヌト云フ御議論トハ實際矛盾シテ居ル譯デゴザイマス、即チ新領土ノ民ヲ治メルニ附キマシテハ違ツタ所ノ法律ガアリマシテ其新領土ニ於ケル内地人及外國人ニ向ッテハ進歩シタル所ノ新法典ヲ行ッテ居ルノデゴザイマスガ、其中ニハ上告再審ト云フコトノ條項ガ御承知ノ通民事訴訟法ニ在リマス、アリマスルガ臺灣ニ於テハ覆審ニ止ツテ……審ニ止ツテ上告ト云フコトガ缺ゲテ居リマス、缺ゲテ居リマスルガ故ニ本年……昨年ノ六月ニ高等法院ト云フモノヲ廢止シマシタル際ニ……勿論其廢止ニハソレ……理由ガアリマシタガ、其廢止ノ際ニ是ハ法律ノ解釋ノ統一ヲ圖ル、即チ民法商法刑法ト云フモノガ同一デアリ故ニソレヲ解釋ノ統一ヲ圖ルタメニ大審院ニ結附ケテ置ク方ガ便利ニモアリ、又サウセヌケレバナラヌモノデアラウト云フコトデ此立法ノ時機ヲ待チマシタ、ソレデ今日大審院ニ結附ケマスル所ノ法案ヲ出シマシタ、之ヲ出

シマスルニ附キマシテハ第一條ニ在ル民事訴訟法刑事訴訟法ニ依リ爲シタル第二審ノ終局判決ニ對シテハ大審院ニ上告ト云フコトガアリマスガ、此上告ヲスルノハ唯今申ス通内地人ト臺灣在住ノ外國人ニ限ツテ居リマシタルハ及ビマセヌノデアリマス、ソレカラ尙ホ此本案ニ反對セラレル御議論ノ中ニハ眞ンバ臺灣デ三級審ノ制度ヲ取ツテモ宜イ併ナガラソレハ大審院マデ行カシデモ覆審院ノ中ニ別ニ一部ヲ設ケテ、ソコヘ上告部トカ再審部トカ云フモノヲ設ケテ審理ヲスルコトニシタラ宜イジヤナイカト云フ御議論ガアリマシタ、是ハ唯今已ニ關サンカラ委シク御話ノアリマシタ通通常ノ行政事務ヲ取リマスル役所トハ違ツテ覆審法院ノ中デ此コトハ覆審此コトハ上告ト云フ如ク行政事務ヲ扱フヤウナ工合ニハイカヌト考ヘテ居リマス、ソレデ詰リ覆審ノ裁判ガ法理ニ合シテ居ルカ若クハ法律ヲ適當ニ適用シテ居ルカト云フコトヲ調ベルモノデアリマスルガ故ニ、甲ノ判事ハ或ル場合ニ於テハ覆審ノ判事ニナリ或ル場合ニ於テハソレヲ檢束即チ……監督ト云フノハ少シ語弊ガアルカモ知レマセヌケレドモガ、詰リ其裁判ガ正當デアアルヤ否ヤト云フコトヲ調ベ又法律ノ適用ヲ不法ニ適用シテ居ヤセヌカト云フコトヲ監視スルモノデアリマスルガ故ニ、ドウシテモ之ヲ一所ニ置キマシテ同一判事ヲシテ……數ヲ餘計ニスルト云フコトハアルトシタ處ガ、其覆審院ノ部内デヤラセルト云フノハ苟モ上告ノ制度再審ノ制度ヲ取ルト云フ精神ニ矛盾スルコト、考ヘマス、サウスルト臺灣デハソレナラバ矢張舊ノ如クニ高等法院ヲ置ク方ガ宜イト云フ說ガアルカモ知レマセヌガ、既ニ本案提出ノ際ニ述ベラレタ如ク高等法院ヲ置キマスルト云フト三万五六千圓ノ費用ヲ費シマス、加之同シ法律ヲ運用スルノニ臺灣ニモ大審院ガアリ此方ニモ大審院ガアルト云フコトデハ法律ノ統一上ニ於テモ甚ダ面白クナイノデ、即チ總テ大審院ニ結附ケルト云フ精神即チ本案ヲ出シマシタル理由ノ土臺ガ總テ破レルヤウニ至リマスカラ政府ハ再ビアチラニ高等法院ヲ設ケルノ希望ハナイノデアアル、又覆審法院ノ内輪ニ向ッテ上告部ヲ設ケテ上告ヲヤラセルト云フヤウナコトハ司法制度ノ上ニ取ルベキモノデナイト思ツテ居リマス、故ニ政府ハドウカ此原案即チ少數者ノ御意見ニ贊成アツテ臺灣ニ於ケル内地人及外國人ノ財産上ノ保護及身體上ノ利益ヲ全ウセシメラレンコトヲ希望致シマス

○岡内重俊君 チョット此案ニ附イテ否決サレタ委員ニ簡單ナ質問ヲ致シマス、二箇條ダケデアリマス、本員ハ此案ヲ一見シマシタ處デ是ハ相當ナ案デアアル、殊ニ衆議院デ聊ナ修正モ加ヘタガ通過ヲ致シタ處デ是ハ相當ナ案デアアルト思ヒマスガ、唯今委員長ノ報告ニ據レバ多數ノ委員ハ否決シタ、又少數ノ委員ハ唯今少數意見ヲ述ベラレマシタ通政府委員カラモ陳述ガアツテ要領ハ得マシタガ本案ヲ廢棄スルト云フ理由ノ要點ヲ二箇條程承リタイ、第一ハ大審院ニ上告ヲスル道ヲ開クノハ未ダ早イ、上告ハ差控ヘタラ宜カラウト云フ主意デアアルヤ否ヤ、今一箇條ハ本條ノ第一條カラ第八條マデノ中ニ附イ

テ不完全ナル點ガアル、此點々々ガ不完全デアルカフ上告ノ道ハ許サヌガ宜
イト云フ點ニ起因シテ反對セラル、コトデアルヤ否ヤ、此二點ヲチヨット承
リテウゴザイマス

○三好退藏君 唯今岡内君カラノ御質問ガゴザイマシタガ、本員ハ特別委員
ノ多數者ノ一人デアリマス、其意見ヲ述ベタイト考ヘテ居リマシタ所デアリ
マスカラ一應此意見ヲ述ベマシテ尙ホ御疑問ガ解ケマセヌトキハ其後トテ御
質問ヲ受ケタイ考デアリマス、宜シケレバ演壇デ申述ベタイト考ヘマス、宜
シウゴザイマス

○議長(公衛近衛篤磨君) 宜シウゴザイマス

(三好退藏君演壇ニ登ル)

○三好退藏君 諸君、本員ハ本案ニ附キマシテ特別委員會ニ於テ否決ノ說ヲ
取リマシタ一人デアリマス、其理由ヲ申述ベマシテ且ツ反對者即チ多數者ノ
御意見ニ附イテ尙ホ一二ノ駁論ヲ致シタイト考ヘマス、特別委員會ニ於キマ
シテ第一ニ政府委員ニ質問ヲ致シマシタコトハ本案ヲ提出セラレマシタ所ノ
理由ハ臺灣ノ實際ニ於テドウシテモ大審院ニ上告ノ法ヲ結付ケネバナラヌト
云フ必要ハ如何ナルコトカラ起ツテ居ルノデアアルカト云フコトヲ質問ヲ致シ
マシタ所ガ實際ニ別段斯ウ云フ差支ガアル斯ウ云フ必要ガアルト云フコトハ
ナイ、唯法律上ノ點カラシテ上告ハ大審院ニセシメルト云フコトガ必要デア
ルト云フ考デ、法律上唯統一ヲ圖ルガためニ大審院ニ結付ケルト云フ考カラ
シテ本案ヲ提出セラレタ譯デアルト云フ斯ウ云フ譯デアリマス、然ラバ何
故ニ臺灣ニ於テハ此特別ナル裁判所ニ類似シタモノヲ布カレ高等法院ヲ立テ
ラレテ臺灣ハ全ク特別ノモノ、取扱ニサレタノニ何故ニ高等法院ヲ廢セラレ
タカ、斯ウ云フコトヲ質問致シマシタ所ガ、經費ガ不足デアアルカラソレデ高
等法院ハ廢シタノデアアルト云フ答辯デアアル、ソレ故ニ我々特別委員ノ多數者
ハ臺灣ノ統治ト云フモノハ初ヨリ立法行政司法總テガ臺灣ハ特別ニナツテ居
ルノデアアル、既ニ明治二十九年デアツタカ六十三號ヲ以テ立法權ヲ臺灣總督
ニ委任サレテ居ル、本年モ既ニ其法律ノ改正延期ヲ許サレタ譯デアアル、尙ホ
臺灣統治ノ上ニ附イテ立法權モ尙ホ十分ニ委任セラレヌケレバ臺灣ノ統治ガ
出來ナイト云フコトデ特別ト云フコトニナツテ居ルノデアアル、然ラバ尙ホ此
上告ノ一點ダケヲ内地ニ持ツテ來ネバナラヌト云フコトハ實際上少モ必要ヲ
見ナイデアアラウ、政府委員モ答ヘラレル通ドウシテモ内地ニ持ツテ來ナケレ
バナラヌト云フ必要ガナイト言ハレル如ク我々多數委員ガ考ヘル所デモ其必
要ハ少モナイデアアラウ、唯政府ノ經費ノ都合カラシテ高等法院ヲ廢セラレサ
ウシテ臺灣ニ法律ヲ統一スル所ガナイカラ日本内地ノ大審院ニ上告サセネバ
ナラヌト云フ政府ノ都合上カラ人民ニ非常ナ便利迷惑ヲ感ゼシメル、上告
ヲ許サレトキハ檢事ノ上告モアリ人民ノ上告モアルケレドモ免ニ角、數百
里ヲ隔テ、東京マデ出テ來ナケレバナラヌ、其日數ト其費用ハ莫大ナモノデ
アル、尤モ本人自ラ出テ來ナケレバ宜イガ……刑事上デ拘留サレテ居ル所ノ

者ハ其往復ノ日數其他大審院ニ於テ審理ノ間ト云フモノハ空シク監獄ノ中ニ
苦マナケレバナラヌ、費用ヲ掛ケ時間ヲ潰シ而シテ人權自由ノ一日モ速ニ裁
判ガ確定シテ其享クベキ所ノ利益ヲ享ケ又得ラル、所ノ自由ヲ得ヌケレバナ
ラヌ、人民ガ唯政府ノ御都合ノためニ大審院マデ出ナケレバナラヌト云フコ
トハ成ル程法律ヲ統一スル上カラハ一應理由ガアルカ知リマセヌガ唯法律ヲ
統一スルト云フ方ノコトデ人民ニ非常ナル費用ヲ掛ケサセナケレバナラヌ、
又人身ノ束縛モ永ク之ヲ受ケサセナケレバナラヌト云フヤウナコトハ實ニ是
ハ政府ニ於テモ御考ナサラネバナラヌコトデアラウト思フ、臺灣總督府ニ
立法權ヲ委ネラレ、司法權モ委ネラレテ總テ内地ノモノトハ全ク違ツテ居ル
ノデアアル、ソレデ高等法院ヲ廢セララル、モ少モ我々議會ニ於テ協賛シタコト
ハ何シニモナイ、總督府ガ廢スルモ起スモ總テ總督府ニ許サレテ居ルノデア
アル、ソレデ經費ノ點カラ今更仕方ガナイ、大審院ヘ結付ケルニ依ツテ廢スル
ト云フノハ餘リ御勝手デ、ソレハ政府ノ御都合デアツテ人民ノ迷惑ハ少モ顧
ミナイト云フモノデアアル、ト云フノガ我々多數者ノ委員ノ中ノ考デアツタ、
ウ云フコトガ唯一ノ理由デアリマス、所ガ政府ノ原案ニ依リマスルト云フ斯
ウ云フ上告ヲ致シマシテ大審院デ破毀シタ時分ニハ矢張臺灣ノ覆審院ニ差戻
ト云フヤウナコトニナルノデアリマス、我刑事訴訟法ニ於キマシテハ一ノ控
訴院デ裁判ヲ致シタモノヲ大審院ニ於テ破毀致シマスレバ必ズ之ヲ他ノ控訴
院ニ移サネバナラヌコトニナツテ居リマス、民事ハ之ヲ差戻シ或ハ他ノ控訴院
ニ移スト云フコトデアリマスケレドモ、刑事ハ必ズ之ヲ他ノ裁判所ニ移シテ
別ノ裁判官ガ裁判ヲセネバナラヌノデアリマス、然ルニ政府ハ法律統一ト云
フテ法律上ノコトヲ重ニ執ツテ居ルニ拘ラズ矢張刑事訴訟法ノ法律ニ違ツタ
所ノコトヲサセヤウト云フコトニナルノデアリマス、ソレデ是ハ衆議院ニ於
テ修正ヲ致シタ所ノコトガ最モ適當ナルコトデアリマス、法律ノ點カラ申シ
マスレバ……御覽ノ通第二條ニ「辯論及裁判ヲ爲サシムル爲メ其ノ事件ヲ原
法院ニ差戻スヘシ」トアツタ所ニ衆議院ガ修正ヲ加ヘテ「他ノ控訴院ニ移送
シ又ハ原法院ニ差戻スヘシ」ト云フコトニ修正ニナツテ居リマス、ソレニ反
對者ハ此衆議院ノ修正ハ惡ルイト斯ウ言ハレル、又政府委員ハ之ニ反對ヲシ
テ居リマス、是ハ法律上カラ考ヘマシタトキニハ現行ノ法律ノ上カラ言フト
衆議院ノ修正ノ通デナケレバ適ハヌノデアリマス、適當シナイノデアアル、ソ
レデ法律ノ一點カラ論ズルトキニハ衆議院ノ修正通デナケラネバ此現行法律
ニ矛盾シテ來ルノデアアル、又現實ノ所ニ於キマシテモ是ハ斯ウナケラネバ民
事ハ格別刑事ニ於テハドウシテモ出來ナイノデアアル、刑事訴訟法ニ抵觸シテ
來ルノデアリマス、斯ノ如キ勝手ノ宜イコトハ刑事訴訟法ヲ打破ハシテ變則
ヲ執リ又不便ナ自分ノ勝手ノ惡ルイ方ノコトハ法律ノ統一ノ點カラ斯ウナケ
ラネバナラヌト云フコトハ實ニ我儘勝手ノ論デアツテ決シテ此裁判構成法及
刑事訴訟法、民事訴訟法ヲ統一スル上ニ附イテ不通ノ論デ即チ通ゼザル所ノ

論アリマス、ソレデ我々ガ執ル所ハ臺灣ハ前ニモ申述ベシタ通全ク特別ナル人情風俗ヲ異ニシテ居ル所デア、縱令内地カラ移住シテ居ル所ノ者デアラウトモ外國人ガ來テ居ラウトモ臺灣ハ臺灣其モノヲ統治シテ……移住シテ居ル所ノモノデアリマスルカラ臺灣總督ニ委任セラレテ居ル權内ニ於テ立法行政司法ノ此三大權ヲ自由自在ニ振回ス所ノ統治ノ下ニ自ラ甘シテ生活シテ居ル者デアリマスルカラ何モ必シモ上告一點ニ限ッテ飽クマデ日本ノ内地ト同一ノ權利ヲ得ナケレバナラヌト云フコトハナカラウト思ヒマス、却ッテ上告ノ路ヲ開イテアリマスレバ自分ガ上告シナクッテモ檢事カラ上告ヲサレルト云フコトデ餘儀ナク迷惑ヲ感シナケレバナラヌト云フコトニナリマスルカ本員等ノ考ヘル所デアハ斯ノ如キ法律ヲ設ケラレテハ却ッテアリガタ迷惑デアラウト思ヒマスサウ感ズルデアラウト思フ、ソレデ今日ノ場合ニ於キマシテ他日ハ知ラズ飽クマデ他日ハ日本ノ内地ノ通ニシナケレバナラヌト云フコトノ場合ガ來リマシタナラハ格別、今日臺灣總督ニハ六十三號ノ法律ヲ以テ立法權ヲ委任セラレ總テノコトヲ特別ニ處分シテ宜シイト云フ權利ヲ與ヘラレテ居ル以上ハ政府ハ臺灣ニ居ル所ノ内地人及外國人ニ對シテモ矢張臺灣總督ノ命令ノ下ニ服從シテ何事モ法律命令ニ從ッテ差支ナイデアラウト信ズルノデゴザイマス、併ナガラ今日高等法院ヲ廢セラレテ覆審院バカリニナツテ居ル、一審二審デ止ッテ居ルト云フコトハ或ハ法律統一ト云フ上ニ附イテ臺灣ダケニ限ルコトガアルカモ知レナイガ、本員ノ考ヘル所デアハ前ニモ述ベマシタル如ク斯ノ如キ特別ナル臺灣統治デアリマスルカ二級審デ澤山デアラウト思ヒマス、上告ノ一審ト云フモノハ設ケラレヌデ宜イ、事實裁判ト云フコトハ御承知ノ通一審二審デアッテ上告審ト云フモノハ決シテ事實ニ立入ル所ノモノデアハナイ、唯法律ノ點ニ附イテ瑕疵ガアレバ其裁判ヲ破毀シテ尙ホ更ニ裁判サセルノデアリマス、尤モ此上告審ト云フモノハ事件ガ少イモノデアリマス、コ、ニ近年ノ統計ハ取ッテ居リマセケレドモ數年前ノ内地ノ統計ヲ取ッテ見マシテモ上告審ニ於テハ民事ハ六分ノ一、刑事ハ七分ノ一位ノモノデアリマス、例ヘバ六十件アレバ十件ハ破毀サレ、七十件アレバ其中ノ十件ハ法律ニ違ウテ居ル點ガアッテ破毀サレルモノデ、誠ニ是ハ僅ナモノデアアルデアリマス、ソレデ臺灣ノ内地此件數ヲ聞イテ見マスルト上告ニナツタ者ハ高等法院ノアッタ時分ニハ誠ニ僅ナモノデアッタト云フコトデアリマスルカ別ニ此事實ノ覆審サヘアレバ上告審ヲ設ケラレナクッテモ差支ナカラウト信ジマスケレドモ是非此法律ノ統一ガ必要デアルト云フコトナラバ臺灣ニ於テ覆審院ノ一部ニ上告審ヲ再審スル所ヲ設ケラレテサウシテ前審ニ立會ツタ所ノ裁判官ヲシテ其上告審ノ場合ヲ審議スルト云フコトノ便宜法ヲ設ケラレテモ少モ差支ナカラウト思フ、是モ今日ノ臺灣總督デアリマスレバ立法權ノ自由ヲ以テ如何ナルコトデモ便宜ニ之ヲ制定スルコトガ出來ルノデアリマス、ソレデ先刻反對者カラハ其人ガ足ラヌ、同ジ人ニヤラセル譯ニハイカヌト云フコトデアリマシタガ是ハ今日ノ所デアハ人ガ少イト云フコトモア

ルサウデアリマスガ是モ……司法ノ經費ノ上ニ附イテ高等法院ヲ經費上カラ廢シタ位デアリマス、併ナガラ唯今ノ法律統一ガ必要デアルト云フコトデアレバ尙ホ高等法院ニ類似シタモノヲ便宜設ケラレテ差支ハナカラウト思ヒマス、人ガ少ケレバ三人五人裁判官ヲ増サシテモ差支ハナカラウト思ヒマス、又反對論者ノ說ニ此法律ハ日本帝國一箇所ニ於テ統一シナケレバナラヌト云フコトデアリマスケレドモ現在ノ處控訴院ガ七箇所アリマス、其七箇所ノ控訴院ガ悉ク區裁判デ裁判ヲシタ所ノ上告審トナツテ居ルノデアリマス、區裁判所デ第一審ヲヤリマスレバソレガ地方裁判所ニ、地方裁判所ガ控訴院ニ上告シテ七ツノ控訴院ガ七ツノ上告裁判所トナツテ居ルノデアリマス、現ニ内地ノ裁判所構成デスラモ尙ホ一ツニ之ヲ集メルト云フコトハ大審院ニ非常ニ事件ガ集ッテ來ルト云フ慮モアッテ旁、今日ハマダ小サイ事件ニ於テハ控訴院ヘ上告審ト云フコトニナツテ居ルト云フガ今日現ニ行レテ居リマス、況ンヤ臺灣統治ニ於テヤ、臺灣統治ニ於テ一ノ上告審ガアルト云フノハ少モ此法律統一ニ差支ハアリマセヌ實際ニ於テハソレガ最モ便利デアラウト信ズルノデアリマス、以上ノ理由ヲ以テチマシテ特別委員會ニ於キマシテハ二名ニ對スル五名ノ多數ヲ以テ否決ヲシタノデアリマス、ソレニ委員長ガ少數者ニ加ラレマシタカラ丁度三人ト五人ニナリマシタノデアリマス、斯ノ如キ意見デ之ヲ否決致シマシタノデアリマス、ドウゾ滿場ノ諸君其趣意ヲ御了解ニナツテ此委員會ノ多數ノ說ニ御贊同アラントコトヲ希望致シマス

○兒玉淳一郎君 本員ハ司法次官カ司法省民刑局長ノ御出席ヲ願ヒタイ、少シ質問致シタイコトガアリマス

○菊池武夫君 今政府委員ノ來ル間ニ反對ノ意見ヲ述ベテハ行ケマセヌカ

○議長(公館近衛篤磨君) 宜シウゴザイマス

(菊池武夫君演壇ニ登ル)

○菊池武夫君 唯今特別委員多數ノ御意見トシテ三好君カラ御話ニナリマス所ヲ承リマシタガ政府委員ガ爲シタル所ノ辯明ニ對シテハ御辯駁ハ或ハ御尤カモ知レマセヌ、併ナガラ我々ガ斯様ナ案ヲ議シマスルニハ必ズシモ政府ガ斯ウ云フ考ヲシタカラ惡ルイトカ宜イトカ云フコトヲ懸念スルニハ及バヌ譯ノモノダラウト思ヒマス、成ル程臺灣ニ關スル制度ハ特別ノモノニハ相違ナイノデアリマス、併ナガラ是ハ何時マデモ特別ニシテ置クベキモノデアハナカラウト思フ、事情ノ許シマスル限ハ追ミト内地同様ノ制度ニ引直サナケレバナラヌモノデアラウト思フ、或ハ軍隊ノ組織デアリマススト云フモノモ、承リマスレバ追ミ通常ノ制ニ改ッテ來ルト云フコトデアリマス、然リマスレバ諸ノ制度設備ノ中ニ於キマシテ内地制ニ繰戻スコトノ出來マスルモノハ戻シテ聊モ差支ナイコトダラウト思フ、大部分ハ特別制デアアルカラ是非何モ彼モ特別制ニシテ置カネバナラヌ、改ムルトキニハ一時ニ之ヲ引戻サンナラヌト云フ窮屈ノ論ヲスルニハ及ブマイ、而シテ此方法ニ依ッテ改メラレントスル所ノ事柄ハ何デアアルカト申シマスト唯裁判事務ノ中ニ於キマシテ上告ト云フ一

事タケニ關スルノデアリマス、御承知ノ通上告ト申シマスモノハ本人ガ體ヲ裁判所ニ出スニハ及バナイ、又シカレト云フ事實ノ調モ入ラヌ、詰リ書類デコトガ足ルコトナデアリマス、果シテ原裁判所ニ於キマシテ認メタル所ノ事實ガ其下シタル所ノ其法律上ノ判斷ニ適合スルカドウカト云フダケノ判斷ヲスルノデアリマス、ソレ故ニ上告ヲ致シマス所ノ者ニハ裁判所ガ少々遠方ニ在リマシタト申シマシテモソレハ格別ノ不便ニハナラナイ現ニ今日デモ支那朝鮮アリニ於キマシテ領事ガ爲シタル所ノ裁判ニ對シテハ長崎控訴院ニ控訴モスル又大審院マデモ參ルト云フ實例モアルノデアリマス、殊ニ左様ナ上告ハ日ミノヤウニ多數アルモノデアルカト申シマスルト先刻三好君モ云ハレマシタ通ニ比較的ニ誠ニ少數ナモノデアル、然レバ假ニ少々ノ不便ガアルモノト致シマシテモ其不便ヲ感ズルモノハ誠ニ僅ナモノデアル、況ヤ其便不便ト云フコトハ三好君並ニ御同説ノ人ハ不便ダト仰ツレヤルカモ知レマセヌケレドモ併ナガラ又其反對ノ方ノ考モ随分アルノデアリマス、臺灣ノ裁判所ノ構成等ハ先刻御話ノ通特別ノモノデ、特別ノモノデアルカラニ又内地ノ裁判所ニ於ケルト同一ノ信用ハ置ケナイト云フコトモ云ツテ宜シカラウト思フ、然ラバ此特別ノ裁判所切リデ己ノ權利ガ果シテ相當ニ伸ベラレテ居ルカ曲グラレテハ居ラナイカト云フコトヲ、ソコギリデ止メテ仕舞フノデ己ガ全ク信用ヲ置カレル處ノ内地ノ裁判所ノ裁判デ以テ其問題ヲ極メテ貰フ方ガ宜イカト云フコトニナリマシタナレバ假令少し里數ノ遠イガタメニ近イ人ヨリハ不便ヲ被リマシテモ我信用ノ出來ル處ノ裁判所ニ於テ曲直ヲ裁判シテ貰フノガ最モ希望スル處デアルト云フ方ガ當リ前デアアルマイカト私ハ思フ、ソレガタメニ堪ヘラレヌヤウナ不便ガアルト云フコトナレバマア誰モ實際問題トシテハ考ヘモノデアリマスケレドモ唯今申ス如クニ上告審ト云フモノハ左様ニ本人自ラ出ナケレバナラヌト云フ譯デモナシ詰リ書類サヘ送ツテヨコセバ出來ル位ノ手續ナモノデアリマスルカラシテ不便ト云フコトモ云フ程ノコトハアルマイ、サスレバ特別組織ノ比較的信用ノ薄イ裁判所ニ於テ己ノ生命ニモ關スルヤウナ裁判ヲ極メラレテ仕舞フ方ガ宜イカ或ハ内地ニ住シテ居ル人同様ニ極大最上ノ裁判所デ以テ國民ノ信用ヲ置イテ居ル處ノ裁判所デ最終ノ判斷ヲシテ貰フガ宜イカト斯ウ云フダケノ問題ト思フ、サウナッタナラバ私杯ノ考デハ臺灣ニ居ル人デモ此法案ニ規定サレルガ如クニ矢張大審院デ捌イテ貰イタイト云フノガ人情デアラウト思フ少し位ノ不便ガ好シアリマシテモ其不便ハ此信用アル處ノ裁判所デ捌イテ貰フ得失トハ無論比較シテ話ガ出來ヌ事柄デアラウト思フ、サウ致シマスレバ臺灣總督府ノ處置ニ少々位氣ニ入ラナイ處ガアルトカ或ハ政府委員ノ説明ガ粗末デアルト云フコトナシハ強イテ頓著スルニハ及ビマセヌ話デアリマスカラシテ矢張此法案通御極メニナッタ方ガ臺灣ニ在住致シマシテ此法律ノ利益ヲ受ケヤウト云フ内外ノ臣民ノタメデアラウト私ハ信ジマス

○兒玉淳一郎君 今本員ガ司法次官、民刑局長ノ出席ヲ求メマシタガ居ラレ

ヌヤウダカラ二讀會ノトキニヤリマセウ

○伊澤修二君 本員ハ政府委員ニ質問シタイゴトガアル、此臺灣ニハ諸君御承知ノゴザイマス通法律ノ效力ヲ持ツモノガ二ツアリマス、即チ一ハ律令ト稱スルモノ一ハ全クノ法律ト稱スルモノデアルト云フコトハ能ク諸君御承知ノコトデアラウト存ジマス、先刻來政府委員ノ言ハル、處ニ依ルト云フト恰モ民法刑法商法等ガ法律トシテ臺灣ニ行レテ居ル如クニ言ハレマスルガ果シテ其法律トシテ行レテ居ルト云フデアリマスレバ是ハ勅令ノ媒ヲ以テ臺灣ニ公布サレタモノデナケレバナラヌ、若シ律令デアリマスレバ即チ臺灣總督ガ權限ヲ以テ律令トシテ出サレテ居リマスルモノカ、甲乙ドチラデアリマスカ、是ハ法律トシテ出テ居ルカ、律令トシテ出テ居ルカ、承リタイ

(政府委員森田茂吉君演壇ニ登ル)

○政府委員(森田茂吉君) 唯今ノ御尋ハ商法トカ民法刑法ノ如キモノガ法律デ行レテ居ルカ律令デアアルカト云フ御問デアリマスガ是ハ律令デ行レテ居リマス、ソレハ形ハ律令デ行レテ居リマス、ソレハ形ハ律令デ行レテ居リマシマス、其實質ニ至リマシテハ多少土地ニ關シマスル關係ハ全ク内地ト異ニシテ居リマス、其餘項ハ取り除イテ居リマスガ、其他ノ條項ニ附イテハ内地ト同ジ實質ヲ以テ律令ノ形デ行レテ居リマス、其律令デ行ハナケレバナラヌト云フ理由ハ臺灣ノ土人杯ニハ行ヒマセヌデアリマス、一般ノ臺灣ノ全島及臺灣全島ノ全住民ニ對シテ行ヒマスデアリマスレバ勅令デモ宜イデアリマシマスガ其行ヒマス人種ニ區別ヲ立テマス故ニ法律ノ效力ヲ持チマス處ノ律令デ行ヒマシタノデアリマス

○伊澤修二君 尙承承リタイノデゴザイマスガ律令デ行ッテ居リマス處ハ、民法刑法商法等ト同シヤウニ定メマシタモノハ全ク此法律タル處ノ民法刑法商法等ノ法文デゴザイマスカ又ハ其中ノ何箇條カラ取除イデアアルカト云フコトヲ承リタウゴザイマス

(政府委員森田茂吉君演壇ニ登ル)

○政府委員(森田茂吉君) 御答致シマスガ此明治三十一年七月ニ律令第八號ガ出テ居リマス、ソレニ「民事商事及刑事ニ關スル事項ハ民法商法刑法民事訴訟法刑事訴訟法及其附屬ノ法律ニ依ル但左ニ掲ケル事項ハ別ニ定ムルマテ現行ノ例ニ依ル」トアル、其事項ハ臺灣人ト清國人ト別ガアルト云フコトニナツテ居リマス

○伊澤修二君 ソレヲ御讀ミ下サイ

○政府委員(森田茂吉君) 其事項ハ「本島人及清國人ノ外ニ關係者ナキ民事及商事ニ關スル事項」「本島人及清國人ノ刑事ニ關スル事項」是ダケガ取除ケル必要ガアルタメニ法律デ其儘アチラニ勅令デ行フコトハ出來マセヌ、ソレダケデアリマス

○伊澤修二君 果シテ斯ノ如キモノデアラナラバ是ハ己ニ法律ノ統一ヲ圖ルト云フコトニ附イテハ全ク矛盾シタモノデアアル、一方ハ違ッタモノデアアル、

法律デハナイ、其法律デナイ律令ノモノヲ内地ノ大審院ヘ持ッテ來ルト云フコトハ少シ統一ヲ圖ルト云フコトノ目的ヲ達スルモノデハナイヤウニ思フガ、政府委員ハソレデ如何ナル點ニ於テ統一ヲ圖ルト云フ考デアルカソレヲ承リタイ

(政府委員森田茂吉君演壇ニ登ル)

○政府委員(森田茂吉君) 唯今ノ御問ガ少シ分リ兼ネマシタガ、法律ノ統一ヲ圖ルト云フコトノ理由ニシタノハ律令デ出シタル處ノ法律ト同シ效力ヲ有ッテ居ル命令ヲ出シタノデハ往ケヌト云フコトデアリマセウカ……少シ御質問ノ要點ガ分リ兼ネマスガ……

○伊澤修二君 分リマセヌカ……宜シウゴザイマス

○政府委員(森田茂吉君) モウ要リマセヌカ……

○議長(公曾近衛篤磨君) 大抵議論モ盡キタヤウデゴザイマスカラ採決致シマス、本案ヲ第二讀會ニ移スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(公曾近衛篤磨君) 少數ト認メマス、本案ハ廢棄ニナリマシタ、マダ少シ早ウゴザイマスケレドモ休憩ヲ致シマス

午前十一時五十三分休憩

午後一時五分開議

○議長(公曾近衛篤磨君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

(小原書記官朗讀)

東京市ニ關スル法律案特別委員會ニ於テ委員長ニ侯爵久我通久君、副委員長ニ子爵岡部長職君當選セラレタリ

○議長(公曾近衛篤磨君) 今朝御委託ニナリマシタ特別委員ノ氏名ヲ御報道致シマス

(太田書記官朗讀)

領事官ノ職務ニ關スル法律案特別委員

子爵長岡 護美君 子爵入江 爲守君 子爵山井 兼文君

宮本 小一君 周 布 公平君 男爵小早川 四郎君

高橋 新吉君 三崎 龜之助君 野 口 駿君

○(周布公平君) 此際日程ノ變更ヲセラレテ今朝御配布ニナリマシタ……

○議長(公曾近衛篤磨君) チョット御待チ下サイ、是ヨリ午前ノ會議ニ引續キマス

○(周布公平君) 此際議事日程ヲ變更シテ今日配布ニナリマシタル國有林野法案、國有土地森林原野下戻法案ノ第一讀會ヲ開カレマシテ政府ノ説明ヲ聞キマシタ上デ委員付託ノコトニ致シタイト考ヘマスル、隨分此法案ハ重大ナコトデアリマスルカラ成ルベク特別委員ニ時間ヲ御與ヘニナッタ方ガ全カラウト思ヒマス、此際特別委員付託ダケノコトニナルコトヲ希望シマス、願クハ議事日程變更ニ御賛成ヲ願ヒマス

○男爵西五辻文伸君 賛成

○子爵岡部長職君 賛成

○議長(公曾近衛篤磨君) 周布君ノ動議ニ御異議ガナクバ議事日程ヲ變更シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○議長(公曾近衛篤磨君) 國有森林土地原野下戻法案、第一讀會

(小原書記官朗讀)

國有土地森林原野下戻法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十二年二月二十八日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公曾近衛篤磨殿

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

國有土地森林原野下戻法案

國有土地森林原野下戻法案

第一條 地租改正又ハ社寺土地處分ニ依リ官有ニ編入セラレ現ニ國有ニ屬スル土地森林原野若ハ立木竹ハ其ノ處分ノ當時之ニ付キ所有又ハ分收ノ事實アリタル證據ヲ有スル者ニ於テ此ノ法律ニ依リ明治三十二年十二月三十一日迄ニ主務大臣ニ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ期限ヲ經過シタルモノ又ハ下戻ニ關シ既ニ處分ヲ受ケタルモノハ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス

地租改正處分既濟地方ニ於ケル未定地脫落地ニ付テハ此ノ法律ノ規定ヲ準用ス

第二條 下戻ノ申請ヲ爲ス者ハ第一條ノ事實ヲ證スル爲少クトモ左ノ書面ノ一ヲ添付スルコトヲ要ス

一 所有又ハ分收ノ事實ヲ證スヘキ公簿若ハ公書

二 高受ニシテ納税シタルコトヲ證スヘキ書面

三 賣買讓與質入書入寄附等ニ依ル所有又ハ分收ノ事實ヲ證スヘキ書面

四 木竹又ハ其ノ賣却代金ヲ分收シタルコトヲ證スヘキ書面

五 私費ヲ以テ木竹ヲ植付ケタルコトヲ證スヘキ書面

六 私費ヲ以テ田畑宅地ニ開墾シタルコトヲ證スヘキ書面

第三條 前條ノ證據書類ニシテ所有又ハ分收ノ事實ヲ證スルニ充分ナリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ下戻ヲ爲スヘシ但シ第三者ニ對シテ讓渡ノ契約ヲ爲シタルモノ又ハ埋立ヲ許可シタル公有水面ノ敷地ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 下戻ヲ受ケタル者ハ其ノ下戻ニ因リテ所有又ハ分收ノ權利ヲ取得ス

前項ニ依リ所有又ハ分收ノ權利ヲ取得シタル者ハ其ノ土地森林原野若ハ立木竹ニ關シ第三者ニ對スル國ノ權利義務ヲ承繼ス

第五條 公用又ハ社寺境内ニ供シタル土地森林原野若ハ立木竹ハ下戻ヲ爲シタル後ト雖無償ニテ其ノ公用又ハ社寺境内ニ供セラルモノトス

第六條 下戻申請ニ對シ不許可ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七條 此ノ法律施行以前ニ差出シタル下戻ニ關スル申請書又ハ願書ハ此ノ法律ニ依リタルモノト看做ス

(衆議院修正)

國有土地森林原野下戻法

第一條 地租改正又ハ社寺上土地處分ニ依リ官有ニ編入セラレ現ニ國有ニ屬スル土地森林原野若ハ立木竹ハ其ノ處分ノ當時之ニ付キ所有又ハ分收ノ事實アリタルハ此ノ法律ニ依リ明治三十三年十二月三十一日迄ニ主務大臣ニ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得

前項ノ期限ヲ經過シタルモノハ下戻ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス

藩籍奉還以後上土地處分ヲ受ケタル土地及地租改正處分既濟地方ニ於ケル未定地脫落地ニ付テハ此ノ法律ノ規定ヲ準用ス

第二條 前條ニ依ル申請ニシテ左ノ一ニ該當スルモノハ下戻ヲ爲スヘシ

一 公簿若ハ公書ニ依リ所有又ハ分收ノ事實ヲ證スルモノ

二 高受又ハ正租ヲ納メタル證アルモノ

三 拂下下付賣買讓與質入書入寄附等ニ依ル所有又ハ分收ノ事實ヲ證スヘキモノ

四 木竹又ハ其ノ賣却代金ヲ分收シタルアルモノ

五 私費ヲ以テ木竹ヲ植付ケタルアルモノ

六 私費ヲ以テ田畑宅地ニ開墾シタルアルモノ

七 其ノ他民有ト認ムヘキ證アルモノ

第三條 下戻ヲ受ケタル者ハ其ノ下戻ニ因リテ所有又ハ分收ノ權利ヲ取得ス

前項ニ依リ所有又ハ分收ノ權利ヲ取得シタル者ハ其ノ土地森林原野若ハ立木竹ニ關シ第三者ニ對スル國ノ權利義務ヲ承繼ス

第四條 第二條ニ依リ下戻ヲ受ケタルモノト雖公用又ハ社寺境内ニ供セララルモノハ其ノ公用又ハ社寺境内ヲ廢シタル後ニアラサレハ權利ヲ行使スルコトヲ得ス

第五條 下戻申請ニ對シ不許可ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第六條 此ノ法律施行以前ニ差出シタル下戻ニ關スル申請書又ハ願書ハ此ノ法律ニ依リタルモノト看做ス

○議長(公曾近衛篤磨君) チョット御協議致シマスガ國有林野法案ハ之ニ關連シタ案デアリマスルカラ説明或ハ質問等ガアリマシタトキニ至極都合ガ好カラウト思ヒマスルカラ是モ朗讀ヲ致サセマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

(小原書記官朗讀)

國有林野法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十二年二月二十八日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公曾近衛篤磨殿

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ載録ス)

國有林野法案

國有林野法

第一條 此ノ法律ニ於テ國有林野ト稱スルハ國ノ所有ニ屬スル森林原野ヲ謂フ

第二條 國有林野ニシテ國土保安又ハ國有林野ノ經營上國有トシテ保存ノ必要アルモノハ賣拂讓與又ハ交換スルコトヲ得ス但シ公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ及第十五條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 前條ノ國有林野ト雖他ノ官有地ニ編入スルノ必要アルトキハ之ヲ組換ヲ爲スコトヲ得

組換ヲ爲シタル土地ニシテ其ノ使用ヲ廢シタル場合ニ於テ林野ニ復スヘ

キ必要アルモノハ更ニ國有林野ニ編入ス

第四條 國有林野ノ境界査定ハ當該官廳ニ於テ豫メ期日ヲ定メ鄰接地所有者ニ通告シテ其ノ立會ヲ求メ施行スヘシ
鄰接地所有者豫定期日ニ於テ立會ハサルコトアルモ當該官廳ハ境界査定ヲ施行スルコトヲ得

第五條 國有林野ノ境界査定ヲ終ヘタルトキハ當該官廳ハ直ニ鄰接地所有者ニ通告スヘシ

第六條 國有林野ノ境界査定又ハ測量ノ爲目標ヲ設置シ若ハ支障木竹ヲ伐採スルノ必要アルトキハ其ノ土地若ハ木竹ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條 鄰接地所有者境界査定ニ不服アルトキハ第五條ノ通告ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得

一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二 市町村又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツルトキ

三 社寺上地ノ森林ヲ其ノ社寺ニ賣拂フトキ

四 命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其ノ緣故アル者ニ賣拂フトキ

五 民有地、道路、河川等ニ介在スル十町歩以内ノ林野ヲ鄰接地ノ所有者ニ賣拂フトキ

六 道路、溜池、堤塘、溝渠等ノ敷地トシテ貸付シアル林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フトキ

七 此ノ法律施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野又ハ第九條ノ開墾地ヲ其ノ事業ヲ成功シタル者ニ賣拂フトキ

第九條 國有林野ノ開墾ノ成功ヲ條件トシ豫メ其ノ價格及成功期限ヲ定メ隨意契約ヲ以テ賣拂フ豫約ヲ爲スコトヲ得

第十條 國有林野產物ノ隨意契約ニ依リ賣拂ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ貸付スルコトヲ得

一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二 牧畜又ハ植樹ノ爲必要アルトキ

三 第九條ニ依リ開墾者ノ爲ニスルトキ

四 一箇年貸付料三百圓ヲ超エサルトキ

第十二條 國有林野ヲ貸付スルトキハ相當ノ貸付料ヲ徵收スヘシ但シ前條第一號及第三號ノ場合ニ於テハ貸付料ヲ免スルコトヲ得

第十三條 國有林野ノ貸付ハ左ノ期間ヲ超ニルコトヲ得ス

一 植樹ノ場合ニ於テハ八十年

二 家屋、倉庫其ノ他ノ建築物ノ場合ニ於テハ三十年

三 其ノ他ノ場合ニ於テハ十五年
前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得
第十四條 國土保安又ハ國有林野ノ經營上必要ナル場合ニ限り國有林野又ハ立木竹ト他ノ同價格以上ノ土地、森林、原野又ハ立木竹ト交換スルコトヲ得

第十五條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り讓與スルコトヲ得

一 一段別一町歩以下ニシテ公立ノ學校又ハ病院ノ用地ニ供スルトキ

二 府縣都市町村及其ノ他ノ公共團體ニ於テ道路、河川、港灣、水道、堤塘、溝渠、溜池、火葬場、墓地、公園等公共ノ用ニ供スルトキ

第十六條 用途ヲ指定シテ讓與シタル國有林野ヲ指定ノ期間内ニ其ノ用途ニ使用セサルトキ又ハ一旦其ノ用途ニ使用シタル後當該官廳ニ於テ指定シタル期間其ノ使用ヲ繼續セサルトキハ之ヲ返還セシムルコトヲ得

前項ニ依リ林野ヲ返還セシメタル場合ニ於テハ其ノ林野ノ上ニ設定シタル第三者ノ權利ハ消滅ス

第十七條 社寺上地ノ森林ハ其ノ社寺ニ保護ヲ委託スルコトヲ得

國有林野ニシテ保護上必要ナル場合ニ於テハ市町村又ハ市町村内ノ一部ニ其ノ保護ヲ委託スルコトヲ得

前二項ノ場合ニ於テハ其ノ委託者ニ林野產物ヲ讓與スルコトヲ得

委託ノ方法及受託者ニ讓與スヘキ林野產物ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條 國有造林者ト其ノ收益ヲ分收スルノ契約ヲ以テ國有林野ニ部分林ヲ設クルコトヲ得

法令、慣行又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ國有林ニ就キ收益ノ分收ヲ爲スモノハ前項ノ部分林ト看做ス

第十九條 部分林ノ樹木ハ國有造林者トノ共有トシ其ノ持分ハ收益分收ノ割合ニ均シキモノトス

部分林設定前ヨリ存在スル樹木ハ國有所有トス

第二十條 部分林ノ存續期間ハ八十年ヲ超ユルコトヲ得ス

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第二十一條 民法第二百五十六條ノ規定ハ部分林ノ樹木ニ適用セス

第二十二條 第十七條第三項及第四項ノ規定ハ部分林ノ造林者ニ之ヲ準用ス

第二十三條 主務大臣ハ十箇年毎ニ其ノ年三月三十一日ニ現在スル國有林野現在表ヲ其ノ年開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ但シ第一回ノ報告ハ明治三十四年三月三十一日ノ現在ニ依ル

第二十四條 主務大臣ハ毎會計年度間ニ於ケル國有林野ノ増減異動ヲ翌年度開會ノ帝國議會ニ報告スヘシ

附則

第二十五條 此ノ法律ハ北海道及沖繩縣ニ施行セス

第二十六條 此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

(衆議院修正)

第三條 前條ノ國有林野ト雖他ノ官有地ニ編入スルノ必要アルトキハ之カ

組換ヲ爲スコトヲ得

組換ヲ爲シタル土地ニシテ其ノ使用ヲ廢シタル場合ニ於テ林野ニ復スヘキ必要アルモノハ更ニ國有林野ニ編入ス

社寺上地ニシテ其ノ境内ニ必要ナル風致林野ハ區域ヲ畫シテ社寺現境内ニ編入スルコトヲ得

第六條 國有林野ノ境界査定又ハ測量ノ爲目標ヲ設置シ若ハ支障木竹ヲ伐採スルノ必要アルトキハ其ノ土地若ハ木竹ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス但シ相當ノ補償ヲ求ムルコトヲ得

第八條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ賣拂フコトヲ得

一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二 市町村又ハ公立小學校ノ基本財産ニ充ツルトキ

三 社寺上地ノ森林ヲ其ノ社寺ニ賣拂フコトキ

四 命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ緣故アル林野ヲ其ノ緣故アル者ニ賣拂フコトキ

五 民有地、道路、河川等ニ介在スル十町歩以内ノ林野ヲ賣拂フコトキ

六 道路、沼池、堤塘、溝渠第ノ敷地トシテ貸付シタル林野ヲ其ノ借地人ニ賣拂フコトキ

七 此ノ法律施行以前ニ開墾、牧畜又ハ植樹ノ爲貸付シタル林野又ハ第九條ノ開墾地ヲ其ノ事業ヲ成功シタル者ニ賣拂フコトキ

第十一條 國有林野ハ左ノ場合ニ限り隨意契約ヲ以テ貸付シ又ハ使用セシムルコトヲ得

一 公用又ハ公益事業ノ爲必要アルトキ

二 牧畜又ハ植樹ノ爲必要アルトキ

三 牛馬放牧ノ爲使用セシムルコトキ

四 第九條ニ依リ開墾者ノ爲ニスルコトキ

五 一箇年貸付料三百圓ヲ超エサルコトキ

第十二條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルコトキハ相當ノ貸付料又ハ牛馬放牧料ヲ徴收スヘシ但シ前條第一號及第四號ノ場合ニ於テハ貸付料ヲ免スルコトヲ得

第十三條 國有林野ヲ貸付シ又ハ使用セシムルコトキハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一 植樹ノ場合ニ於テハ八十年

二 家屋、倉庫其ノ他ノ建築物ノ場合ニ於テハ三十年

三 其ノ他ノ場合ニ於テハ十五年

前項ノ期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條 社寺上地ノ森林ハ其社寺ニ保管セシムルコトヲ得

社寺ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ社寺林地ヲ使用シ又ハ主副產物ヲ採取スルコトヲ得

第十八條 國有林野ニシテ保護上必要ナル場合ニ於テハ市町村又ハ市町村

内ノ一部ニ其ノ保護ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ受託者ニ林野產物ヲ讓與スルコトヲ得

委託ノ方法及受託者ニ讓與スヘキ林野產物ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 第十八條第二項及第三項ノ規定ハ部分林ノ造林者ニ之ヲ準用ス

(政府委員藤田四郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(藤田四郎君) 國有林野法案及國有森林土地原野下戻法案ニ附キマシテ簡單ニ提出ノ理由ヲ申上ゲタイト思ヒマス、國有林野法案ト云フモノハ詰リ政府ノ持チマスル所ノ森林ニ附キマシテノ管理法デゴザイマシテ御承知ノ通舊藩來ノ關係其他等モゴザイマシテ單純ノ管理規則ニ依リマシテ支配スルト云フ譯ニハイキマセヌ地方ノ事情又ハ森林ノ經營等ニ於キマシテ或ハ必要ト認メマシタナラバ特ニ地方ノ公共團體若クハ社寺ニ委託ヲ致シマスルカ或ハ保護ヲ頼ムト云フコトニ致シ又國家ガ必要ト認メナイ所ノモノハ適當ノ方法ニ依リマシテ公共團體其他ノモノニ賣拂フ道ヲ附ケルト云フコトガ此

法律ノ目的デゴザイマス、次ニ此下戻法案デゴザイマスルガ此法律ノ趣旨ハ御承知ノ通地租改正又ハ社寺上地林等ニ由リマシテ誤ッテ官有ニ歸シマシタ所ノモノヲ民有ノ證左ノアル者ニ附キマシテ官民有ノ區分ノ規定ニ依リマシテ目下ツレノ下戻ノ手續ヲ致シテ居リマスルガ是ハ御承知ノ通既ニ明治八年以來二十四年ニモ相成リマシテモウ段々時モ經チマスルコトデモゴザイマス

ルシツレノイツマデモ下戻ヲスルト云フコトニナツテハ際涯ノナイコトデゴザイマスルカラ年期ヲ極メマシテ即チ政府案ニ於キマシテハ本年十二月三十一日マデニ最早其後願ッテ來テモ下戻サヌ、サウシテ此規定デスウヤ々斯ウ

斯ウ云フ者ニハ下戻ヲスルト云フコトヲ定メマシタモノデ衆議院ニ於キマシテハ本案ニ附イテ修正モゴザイマシタガ大體ニ於キマシテハ政府ニ於キマシテモ同意ヲ致シマシタ所デゴザイマス、是ハ衆議院ニ於キマシテハ地方ノ利害モアルノデ十分ニ審議シマシテ政府モ同意シ得ラル、所マデ讓歩致シテ衆議院ノ方ハ通過致シタコトデゴザイマスカラ尙ホ其邊御了解ノ上デ速ニ御

協賛アラントヲ希望致シマス

○子爵黒田和志君 此下戻法案ニ附キマシテハ質問致シテ宜シウゴザイマス

○議長(公曾近衛篤磨君) 宜シウゴザイマス

○子爵黒田和志君 政府委員ニ質問致シマス、此下戻法案第一條デゴザイマス、第一條ニ「分收アリタル者ハ其分收ノ事實ヲ證據立テ、サウシテ下戻ヲ願フ時分ハドウ云フコトニナリマスカ、全ク所有權ヲ與フルト云フ譯ニナリマスカ、チヨット政府委員ニ伺ヒマス

カ

貴族院議事速記第三十七號

明治三十二年三月一日

國有土地森林原野下戻法案、國有林野法案 第一讀會

五七九

○政府委員(藤田四郎君) 御答ヲ致シマスルガ、是ハ即チ部分林ト相成リマスルノデゴザイマシテ即チ土地ノ所有權ハ得マセヌデゴザイマスルガ即チ部分林ノ利益ヲ受ケルコトニ相成リマス

○議長(公喬近衛篤磨君) 別段他ニ御質問モナクバ委員ノ選定ニ移リマス

○周布公平君 此委員ノ選定ハ議長ニ御委託ヲ致シマシテ兩案共ニ同一委員ニ託セラレタウゴザイマス、其數ハ九名デ宜シ

(贊成)ト呼フ者アリ

○議長(公喬近衛篤磨君) 議長委託ニ御異議ハゴザイマセヌカ

(異議ナシ)ト呼フ者アリ

○議長(公喬近衛篤磨君) 華族令中改正ニ關シ貴族院令第八條ニ依リ御諮詢ノ件是ハ日程ニ少シ誤植ガアリマスルカラチヨット御注意シマスガ此下ニ會議トアリマスノハ全院委員會ト云フコトノ誤デゴザイマス、昨日ノ日程ニモ會議トナリテ居リマシタガ昨日ハ正誤ヲスルコトヲ取忘レマシタノデゴザイマスカラ左様御承知ヲ願ヒマス、本案ハ過日ノ全院委員會ノ續デアリマシテ秘密會議デアリマスカラ傍聽人ニ退席ヲサセマス、全院委員會ニ移リマス前ニ唯今御委託ニナリマシタ委員ノ氏名ヲ御報道シマス

(太田書記官長朗讀)

國有林野法案外一件特別委員

子爵谷 干 城君 子爵岡部 長 職君 三好 退 藏君

籠手田 安定君 西村 亮 吉君 森 山 茂君

馬屋原 彰君 武井 守 正君 熱海 孫十郎君

(男爵尾崎三良君發言ヲ求ム)

○議長(公喬近衛篤磨君) 尾崎男爵ハ何デス

○男爵尾崎三良君 チョット議長ニ伺ヒマスガ、全院委員會ハ此以前既ニ了ラテ丁度全院委員會ノ結果ヲ御報告ニナラセテ終結シタと思フテ居リマスルガ然ル以上ハ更ニ全院委員會ヲ開カル、ト云フコトニナラ格別其儘續イテ議事ヲ開クベキコトデハナイト思ヒマスガ如何デスカ

○議長(公喬近衛篤磨君) アレハ終結シタノデハゴザイマセヌ、延期ヲスルト云フコトノ決議ニナラセテ居リマシテ延期ハ全院委員會ニ於テハ全院委員會自ラハ出來マセヌ、本議ニ戻ラセテ延期ヲシタノデアル、此貴族院規則ノ第二十四條ニアリマシテ「全院委員會ハ自ラ延會スルコトヲ得ス若シ議事終局セサルトキハ委員長ハ議長ノ出席ヲ求メ議事ノ經過ヲ議員ニ報告スヘシ」之ガ此間アツタノデアリマス、ソレカラ「此場合ニ於テハ議長ハ更ニ開會ノ期日ヲ定メ議事日程ニ記載スヘシ」ト云フコトガアリマスルカラシテ即チ昨日ノ

日程ニ移シマシタノハ其期日ヲ定メテ日程ニ記載シタルノデアリマス

○男爵尾崎三良君 是ハ極ク始メテノヤウデスガ更ニ開會ト云フコトハ即チ此場合ニモ本會議ヲ開カル、コトヲ議長ガ極メラル、ノデアツテ、ソレカラ又更ニ全院委員會ニスルカ或ハ其儘本會議ニスルカト云フコトハ又別問題ニナラウカト私ハ思フ

○議長(公喬近衛篤磨君) ソレハ尾崎男爵ノ誤解デハアルマイカト思フ、ト云フノハ議事日程ニ記入スルト云フコトハ別段本會議デアレバ此規則ニ特ニ書クニハ及バヌノデアル、特ニ全院委員ト云フ箇條ガ第二節ニ規定シテアルカラ全院委員會ノ開會ノ日程ヲ定メテ更ニ記入スルト云フ意味デアラウト議長ニ於テハ考ヘテ居リマス、是ヨリ全院委員會ニ移リマス

午後一時二十分全院委員會ニ移ル

午後三時二十七分開議

○議長(公喬近衛篤磨君) 是ヨリ本議事ニ移リマス

(公喬徳川家達君演壇ニ登ル)

○公喬徳川家達君 規則ノ命ズル所ニ依リマシテ全院委員長ハ全院委員會ノ經過ヲ御報道ニ及ビマス其經過ハ諸君ノ唯今御承知ノ通堀田子爵ヨリ此議事ヲ延期スルト云フ論ガ出マシテ多數ヲ得マシテゴザイマスカラ此段御報告ニ及ビマス

○男爵尾崎三良君 チョット議長ニ御注意申シタイノデスガ貴族院規則ニ據レバ「全院委員會ハ自ラ延會スルコトヲ得ス」トアリマシテ「議事終局セサルトキハ委員長ハ議長ノ出席ヲ求メ議事ノ經過ヲ議長ニ報告スヘシ」ト云フコトニナラセテ居リマスガ唯今ノ動議ハ此規則ニ違ッテ居リヤウデアリマス、ソレハ一ツ慣例ニナリマスカラ正シテ置カスト行ケマセヌト思ヒマス

○男爵中川興長君 尾崎男爵ニ贊成シマス

○子爵舟橋達賢君 贊成

○議長(公喬近衛篤磨君) 尾崎男爵ノ二十四條ノ御解釋ハ至極適當ノ御解釋ト思ヒマスガ併ナガラ一人デモ延會ヲシタイト云フコトヲ發議シタ時分ニ直ニ議長ノ復席ヲ求ムル……多數ノ人ハ延會ヲ希望セヌデモ一人デモ希望シタトキニハ直ニ議長ノ復席ヲ求ムルノハ議事ノ進行上如何デアリマセウカ唯今ノハ決議ヲシタノデハナク多數ノ人ガ希望スルヤ否ヤト云フコトヲ諮ラタモ

○公喬徳川家達君 唯今決議ト云フ字ヲ使ヒマシタナラソレハ取消シマス

○男爵尾崎三良君 今ノ御解釋ナラソレデ宜シウゴザイマス、ソコデ今一ツ動議ヲ提出シマスガ、此華族令ノ今二三ノ諸君カラ修正ガ出マシテ……

○議長(公爵近衛篤磨君) 尾崎君ニ御注意シマスガ、今延期スルト云フコトガアリマシタガ、ソレヲ決議シテ直ニ本會ノ議事ニ移ルト云フコトニハ往キ兼マス

○男爵尾崎三良君 コレヲ特別委員ニ付託スルト云フノハドウデアリマセウ

○議長(公爵近衛篤磨君) 委員再付託デスカ

○男爵尾崎三良君 左様デス、サウスレバ延會シテモ無駄ニ延會セズニ再付託ニスレバ其間委員ニ於テ研究スル、便宜デハアルマイカト思ヒマス、唯延期シテモ矢張ソレデ済ムト云フ譯ニハ往クマイト思ヒマスカラ

○議長(公爵近衛篤磨君) サウスルト尾崎男爵ノハ、委員ニ再付託スルト云フコトデスカ

○子爵曾我祐準君 尾崎男爵ハ元ノ委員ニ再付託シテサウシテ考ヘサセム、私共ハ十分考ヘタ結果デスガ、今一遍考ヘロト仰シヤル、先刻ノ堀田サノ動議ハ諸君ガ此修正案ヲ受取ッテカラ時間ガナイカラ諸君ガ皆考ヘヤウト云フコトダト思フ、ソレナラ免モ角モザヤガ、元ノ委員ニ付託シテ今一遍考ヘロト云フコトデハ私共考ヘヤウガナイト申シテ宜シイ、少シソコハ御斟酌ヲ願ヒマス

○侯爵黒田長成君 先刻全院委員會ノ節ニチヨット豫告ヲ致シテ置キマシタ通先月二十七日ノ日附デ配布ニナッテ居リマス本員カラノ提出致シマシタ修正案ハ撤回致シタウゴザイマス、議長ヨリ滿場ヘ御諮リヲ願ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 唯今ノ黒田侯爵ノ要求ハ容ル、コトニ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○侯爵細川護成君 此議案ハコレヨリ延會ニナルト云フ唯今堀田子爵ノ御話モアツタガ、我々今日受取ッタノハ正午十二時前デアツタ、之ヲ讀ム暇ガナカッタカラ延會スルト云フノダト心得テ居リマスカラドウゾ明日マデ是ハ御延會ニナッテ本議事ニ移ランコトヲ希望致シマス

○子爵舟橋遂賢君 先刻全院委員長ノトキニハ特別委員ヲ更ニ選定シテソレニ再付託スルト云フ説ノ方ガ先ヘ出マシタ、其次ニ延會シヤウト云フコトガ出タ、念ノタメニ規則ニ就イテ伺ッテ置キマスガ、此ノ如キ場合ニハ延會ノ方ヲ先ヘ御採決ニナリマスカ、特別委員ノ方ヲ先ヘ御採決ニナリマスカ

○議長(公爵近衛篤磨君) 全院委員會ノ間ニドウ云フ動議ガ出マシタカ知リマセヌガ、ソレハ本會ニ移ッテハ一向議スルニ足ラヌ、更ニ尾崎君ヨリ提出スレバ格別、全院委員會ノ間ニアリマシタ動議ハ本會ニ移ッテハモウナイモノト見ナケレバナラヌノデアリマス

○周布公平君 全院委員會ノ延期ハ本議場ニアラザレバ之ヲ延期スルコトガ

出來マセヌ、ソレ故全院委員會ニ於キマシテ延期ノ方ガ多數デアリマシタガ、全院委員會デハ之ヲ議決スルコトガ出來マセヌ故ニ多數ノ意志ヲ表シタダケニ止メテソレカラ議長ノ復席ヲ求メタ譯デアリマスカ此際全院委員會ノ延期ト云フコトヲ議場ニ御諮リ下サルコトヲ願ヒマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 其譯ニナルノデス

○子爵舟橋遂賢君 私人考ヂヤ特別委員ノ再付託ト云フ説ガ全院委員會ニ起ッタトスレバ其コトニ附イテ全院委員會デハ議決スルト云フコトガ出來ナイカラ、直チニ其場合ニハ議長ニ復席ヲ求メテサウシテ委員ニ再付託スルヤ否ヤト云フコトヲ極メナケレバナラヌト思フ、延期スルト云フコトハ後トカラ出タ、議事終局ヲ告ケザルトキハ云々ト云フコトガアルガ、コレハ後ノコトデ、少々其手順ガ私ニ分リマセヌカラ……

○男爵尾崎三良君 スウ云フコトニナラウト思ヒマス、詰リドチラデモ宜イガ、便宜ヲ考ヘレバ委員ヘ付託ノ方ヲ先ヘ御採リニナッタラ宜カラウト思ヒマス、ト云フモノハ唯漫然延會ニナルト其間誰モ取調ヲスルモノハナイ……

滿場ノ諸君皆御取調ニナルデアリマセウケレドモ、ソレデ済ムコトナラ特別委員ト云フモノ、必要ハナイ、委員ヲ選ンデソレニ十分調ベサセヤウト云フ所カラ特別委員ヲ選ブコトニナルノデアリマスカ、是ハ唯延會スルト云フヨリモ其間ハ特別委員ヲ設ケテ十分ニ攷究サスト云フ方ガ便利ダト思ヒマスガ、依ッテハ若シ此攷究ノ足ラヌカラ延バシタイト云フ御方ガアルナラ矢張特別委員ニ付託シテ、モウ一編攷究サセヤウト云フコトニ御同意ニナル譯デアラウト思ヒマス、ソレカラ今一ツ申シテ置キタイノハ本員ハ更ニ委員ヲ選定シテソレニ付託シタイト論ジマシタガ、西五辻男爵ヨリ前ノ委員ニ五人ヲ加ヘ

イト云フ御説モ出マシタ、私ノ考デハ更ニ選ブトモ又元ノ委員ニスルトモソレハヒドイ緊要ナコトデナイ、唯モウ一度委員ニ付託致シタイト云フノガ重ナ理由デアリマスカラ二度ニ御採リヲ願ヒタイ、先ヅ以テ再ビ委員ニ付託シテ審査セシムルヤ否ヤト云フコトヲ御採リニナリタイ

○議長(公爵近衛篤磨君) 尾崎男爵ノ動議ハ本議場ニ成立ッテ居ラヌノデアリマスカ、サウ云フ採決ノ仕様ハナイ、尾崎男爵ノ動議ニ賛成スル人ガアリマス

(「賛成」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 中川男爵ハ御賛成デスカ

○男爵中川與長君 ハイ

○公爵徳川家達君 今舟橋子爵ヨリ色々御論モ出マシタガ、尾崎男爵ノ特別

委員へ再付託云々ト云フコトハ全院委員會デハ決議シ能ハザルコトデアリマス、ソレ故ニ堀田子爵ノ全院委員會ヲ延期スルト云フ論ニ附イテ決ヲ採リマシタ……決ト申シテハ惡ルイカ知レマセヌガ、極メマシタ、ソレデ議長ノ復席ヲ求メタノデアリマス、コレダケヲ申上ゲテ置キマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 尾崎男爵ノ特別委員ニ更ニ付託スルト云フ動議ニ賛成ガアリマシタカラ、是ハ本會ヲ延期スルト云フ前ニ先決問題トシテ採決シマス、是ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(公爵近衛篤磨君) 次ニ全院委員會ヲ延期スルト云フコトニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵近衛篤磨君) 過半数ト認メマス、延期ニナリマシタ、少シ時刻ガ早ウゴザイマスルガ、是ニテ議事ハ止メマス、明日ノ議事日程ハ追ッテ御報告ヲ致シマス、今日ハ散會

午後三時四十分散會